

3年目の農業は一人で任されることが増えた。
組合員を増やすのも目標の1つ



時代を読む経営で、地域の農業を守りたい

「江府町地域おこし協力隊」 協力隊になったきっかけは？

もともと、日本の文化や歴史が好きでした。鳥取に惹かれたのも、伝統や神話の薫りを感じたからだと思います。

以前は京都で松竹撮影所衣裳部の着付師を務め、その後京都、カナダの飲食業界で働いて、再び京都へ。ところが人の多さが辛く感じられ、地方の移住先を探しました。ふと一度も縁がなかった鳥取に興味が出て、たまたま訪ねたのが江府町。幾度か通って地域について調べ、住民の方々と交流し、とてもいいところだと感じました。

町役場の方にも相談し、農業法人の後継者候補として地域おこし協力隊に志願。腰掛けではなく定住するつもりでしたし、経験ゼロの農業も、物づくりが好きな自分には合うと思えました。任期満了後

は法人の幹部役員となり、農業を続けます。

現在の活動と今後の夢は？

私が所属する農事組合法人宮市は現在組合員8人ほど。高齢化が深刻です。法人の先輩方に指導を仰ぎながら、水稲約7ha、大豆約3haを育て、特別栽培にも力をいれています。大豆は特産品の味噌に加工し、昨冬は5tを製造しました。農業は楽ではありませんが、自分の努力と研鑽が結果に現れ、やりがいがあります。

協力隊の給与は最低限の生活を支えてくれますし、税金をいただくので責任を感じます。自分が担い手となって、地域の農業を守って行くモデルにしたい。経営を安定させ、集約化と世代交代を進めて、時代に合う農業法人経営をめざします。

PROFILE

経験ゼロから就農。将来的にはスマート農業導入も検討し、伝統を重んじつつ柔軟に変化を取り入れる温故知新の農業をめざす。宮市集落の役も担う期待の若手。

- 活動内容／農事組合法人宮市の後継者
- 出身地／兵庫県尼崎市
- 活動地域／江府町宮市
- 活動開始年月／2017年4月



自分の田んぼから大山が望める。神話を感ずる風土、気さくな宮内の人々が移住の決め手となった。

米子市
YONAGO



高い自由度で地域づくりを楽しむ

「米子市地域おこし協力隊」 協力隊になったきっかけは？

広島から、毎週のように大山へ通い、登っていました。積み重なるガソリン代、高速代を思うと、移住という選択肢が浮かびました。

鳥取県西部と松江あたりを候補に移住定住関係の諸機関に相談し、情報収集。いくつかの地域おこし協力隊の募集のうち、米子市の観光振興が一番おもしろそうな任務だったので申し込みました。米子は空が広く、風が通り、水平線が美しい！大山には、週2回登るようになりました。

現在の活動と今後の夢は？

米子市観光課に籍を置き、中心市街地のイベントや様々の地域活動に関わっています。昨春の「米子サクラプロジェクト」で淀江傘を使ったライティングをしたのをきっかけ

高重 祐樹 さん

に人脈が大きく広がり、いま、米子の人たちとの交流が楽しくてしかたありません。

私の立場は観光課の業務を最優先に、空いた時間を観光振興に繋がる活動に充てて良いので、平日もまちに出やすい。給与をいただきながらこつとした自由な動き方ができるのは協力隊のありがたい面だと思いますし、地域を知って動くには有効な制度だと思います。3年の任期は活性化に取り組むには短く感じますが、単なる自分探しで終わらせず、何かを形にしたいと考えています。

任期後についてはまだ決めていませんが、米子市にとどまり、地域づくりに関わり続けたいと思っています。移住を検討される際は、自分がその地に魅力を感じ続けられるかを熟慮して選ばれたらいいと思います。

PROFILE

広島県で生まれ育ち、雑誌編集記者、フリーカメラマン、貨物船船員などを経て米子市へ。現在は登山を楽しむだけでなく、大山をテーマにしたグループ写真展にも参加している。

- 活動内容／観光振興、地域活性化
- 出身地／広島県安芸郡
- 活動地域／米子市中心市街地周辺
- 活動開始年月／2018年9月



「Yonago」カリアイ☆マチ満喫イベントで旧加茂川と淀江傘をカラーLEDでライトアップ

